



さくら



さくら会事務局

〒 740-0032 岩国市尾津町二丁目 24-18
岩国短期大学

TEL : 0827-31-8141

FAX : 0827-31-8143

URL : <http://www.iwakuni.ac.jp>

E-mail : sakura@iwakuni.ac.jp

園関係に再就職を希望の方は
E-mail、FAX 等でご連絡下さい。



平成28年度

さくら会総会のご案内

平成28年 **6月19日** (日)

総会

11:00~

岩国短期大学 講堂

総会終了後に楽しいアトラクションを
用意しています。

懇親会

12:30~

岩国短期大学 学生ホール

会費 3,000円

(平成28年3月・27年3月卒業生は1,000円)

さくら会の皆様、5年ぶりの「さくら会報」でございます。会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

歲月人を待たずと申しますが、改めて日々の移ろいを感じる今日この頃でございます。昭和46年に開学されたわが母校も早45年の伝統と革新に凜として香り立つ、大学を目指して精進されています。私共同窓生の心のふるさとの風景として、今も変わらない「楽学の碑」さくら並木の坂道は、大学生活の始まりであり、終わりでした。そして今、同窓会員も約8千名の絆で結ばれた、心強い大輪と成りました。きっとさくら会の皆さん大学時代の夢や希望を大切に、それぞれの道で可能性への意欲を膨らませて、存分にお励みのことと心よりお喜び申し上げます。

私事になりますが、生涯現役の夢を追って齢を重ねもうすぐ卒寿を迎えますが、ここ25年間ばかり、町おこしボランティア「地域に生きる」をテーマに掲げ生涯学習の仲間づくり、学ぶ実践する事で自分探しの生き方、自分磨きのアイデアをお互いに見つけ、支え合って地域社会に少しでもお役にたてればと活動の輪を広げています。

記録的な猛暑が続いた昨年の山口県で

同窓生の皆さまには日々お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、本学のために限りないご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

5年ぶりとなります「岩国短大さくら会報」をお読みいただくにあたり、学長としてご挨拶申し上げます。平成9年4月から平成20年5月まで黒田耕誠学長、同年6月から平成22年3月まで黒瀬基郎学長、平成22年4月から新庄方子学長の後を継いで、平成27年4月から寺嶋が学長に就任しました。少子化、高校生の四大志向や専門学校志望者の増加により、短期大学の置かれた状況は全国的にも厳しく、本学においても定員確保が最重要課題となっています。この間に、平成25年度末をもってキャリアデザイン学科は廃止、平成27年度には幼児教育科の定員を100名から80名に変更しました。現在は専任教員12名、事務職員10名の最小規模の短期大学として運営を続けています。

このような状況の中で、岩国短期大学が生き残っていくためには、まずは優れた保育者を地域に輩出していくこと、それから地域にとってなくてはならない存在になること、この二つしかありません。私たち教職員は「すべては学生のために」の精神のもと、新たな取り組みを始めていますので、そのいくつかを紹介したいと思います。

1. 独自のキャリア支援プログラム

「キャリア」という言葉は随分と世の中に浸透してきましたが、本学は幼児教育の単科短大として生き残る道を選びました。入学してくる学生は地域の子育て支援の一翼

同窓会長
嘉屋栄子



世界の若者の笑顔に触れて

は、世界の若者の笑顔に触れる4年に一度の国際大会「世界スカウトジャンボリー」が開催され152の国から3万4千人が集い開会式が行われました。県知事、日本代表の高校生の挨拶などにつづき安倍首相は「自然や豊かな文化、歴史がある山口・日本を楽しんで」と挨拶され、最大のイベントショーでは皇太子様が大会のテーマ「和」についてお言葉を述べられ「会場に満ちる友情や理想、信念がやがて世界を良くしていくでしょう、どうぞ、しっかりと学んで下さい。」と呼び掛けられました。

学長
寺嶋隆



岩国短大の挑戦

を担う存在であり、8割以上が幼稚園・保育園・施設へと就職しています。2年間で幼稚園教諭と保育士の資格を取得するために、授業はもちろんのこと、実習や地域におけるボランティア活動など忙しい毎日を送ることになります。そこで入学後のミスマッチをなくし、就職後の早期離職を防止するために独自のキャリア支援プログラムを作成、運用しています。入学が決まった受験生から順次授業が始まり、4月に行われる2泊3日の新入生合宿研修、「基礎ゼミナール」や「キャリア開発」といった独自科目で保育者になるための素養を高め、6月に卒業生対象の「フォローアップセミナー」を開催しています。

2. 学生が主役となる行事

限られた2年間の中で、なるべく沢山の経験をしてほしいとの願いから、学生が主体となって運用する企画を沢山設けています。オープンキャンパスを運用するキャンパス

44年振りに日本での開催「県民の皆さんと世界の若者と交流の場を創出する、山口の魅力の世界に発信しよう」と言うお誘いを頂き、私達も参加することに成りました。岩国市のブースでの伝統食文化郷土料理「岩国寿司」の実演には人だかりの中から「スシスシス」の大歓声もあり無形文化遺産に登録された和食の文化は大変な人気でした。

又地域プログラムでは岩国市にも各国のスカウトが小中学校を訪れ、日本の伝統文化を体験する交流が行われ、私達はお手玉遊びのおもてなしで交流を楽しみました。礼儀正しく、志高い世界の若者に触れ合いを通して沢山の異文化の理解、自国の文化の理解を深める事グローバルコミュニケーションの大切さを学ぶ出会いでした。文化には国境を越えて生まれた人間と人間の交流があります。猛暑の中、世界の若者に頂いた素敵な宝物でした。

今年は5年に一度の総会が開催されます。皆様お誘いあわせの上、より多くの参加をお待ちしております。懐かしい恩師を囲んで学友、先輩、後輩との交流を温め合い、更にさくら会の発展に繋げましょう。最後に母校の益々の繁栄を心よりお祈りします。

メイト、近隣の幼稚園児を招いて行われる「おみせやさんごっこ」、清流祭での「キッズルーム」など沢山の機会を設けています。

3. 地域における子育て支援センターとしての役割

平成23年度に「岩国子育て支援ネットワーク」を設立し、様々な活動を行っています。この組織は、岩国幼稚園協会、岩国市保育協会、岩国市保健センター、岩国医療センターと本学の5つの機関が連携し、地域における子育て支援事業を展開しています。主な行事として、「Iwatan親子フェスタ」「親子のための公開講座」「保育者対象研修会」などです。これらの行事に学生たちも参加し、貴重な学びの場であると同時に、地域貢献の活動となっています。

皆さまの母校、岩国短期大学はこうして変貌を遂げながらも、この地域になくてはならない存在になるために教職員一同努力を重ねております。伝統ある岩国短期大学を継続発展させるにはまずは学生確保です。同窓生の皆さまのさらなるご支援を仰ぎたいと思っております。

毎年、11月の「清流祭」には、同窓会有志の方々が「岩国寿司」などを出品していただきます。また、沢山の卒業生が子どもを連れて遊びに来てくれ、近況報告をしてくれます。これらも教職員の励みになっております。皆さまも是非お誘い合わせの上お出かけくださいませ。

最後になりましたが、さくら会の一層のご発展と皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げます。



「還暦を迎えて思うこと」 中村(高山) 充子

和木町議員
(幼3期・昭和50年卒)

働く私に代わって子育てをしてくれた母が、骨折をして広島西医療センターへ入院した。短大を卒業して就職をしたのが、玖波駅近くの保育園であった。新卒の頃に何一つできない私を辛抱強く指導して下さったのが知恩保育園の園長であり、順広寺のご住職であった。恵川を眺めながら病院まで歩くのだが、役にも立たなかった私を温かく見守っていただいていたことが懐かしく思い出される。あの頃に歌っていた仏教歌やオリジナルの盆踊りの歌を口ずさみながら通っている。

昨年、短大を卒業して40年間働いた仕事を卒業した。60歳を過ぎて体力も落ち、親指は腱鞘炎の手術をした。整形外科医からは、リュウマチなどではなく、老人性の痛みと言われ渡された。要するに年を取り、あらゆるところにガタがきたということである。こんなことに負けてたまるかと、お米の代わりにジャガイモを食べて、歩きに歩いて13kgの減量にも成功した。太っている時より、はるかに動きが良くなったと思う。やればできるという自信になった。

退職後、放送大学に入学し、特別支援学校教諭免許を取得するために勉強を始めた。ボランティアをするにしても免許があった方が働き易いと考えたからだ。単位認定試験を受けるため、放送大学の広島校に行くと、いろいろな方がおられた。高齢者の方が英語の勉強をされていたのには驚かされた。意欲的で熱心に学ばれておられ、本当に胸を打たれた。いくつになっても学ぶ姿勢があれば若く元気にいられると思う。

今、考えていることは和木町で公の塾ができないだろうかということである。私の住む町は人口も少ないし、幼稚園、小学校、中学校と1校種ずつしかないため、試算すると意外と安価で実現できると思う。この公の塾に取り組み、和木町から日本を支える人を育てたいという夢がある。未来を担う子どもたちが学べる場所を充実させたいと思っている。



「出会いを大切に」 清中(吉村) 千恵子

岩国市立さかうえ保育園園長
(幼4期・昭和51年卒)

昭和49年4月に岩国短期大学に入学した当時は漠然と「保育士になろうかな」と思っていた私が、2年生の実習でお世話になった源空寺保育園の珠山園長先生と主任の中村美子先生のこどもと遊び接する姿に直話し『保育士になりたい』と思う転機になりました。

月日の経つのは早いもので、保育士としてこども達と接して今年の3月で40年になります。この間9回保育園や支援事業所を異動し、多くの保育士やこども達と保護者、地域の方との出会いがありました。沢山の先生方に御指導頂きながら保育をしていく中で、自由あそびと放任の違いや、感情的に怒ってしまうこととしつけの難しさを教えて頂き、保育の奥の深さを痛感しました。自分には出来ないと感じ落ち込むことも多々ありましたが、職場の皆やこどもの笑顔に元気をもらい日々を振り返る余裕もなく、今日1日が無事終わったと一人満足して過ごしていた気がします。

中堅保育士といわれる頃に『太陽の家』という個別支援を要するこども達の事業所に異動になりました。ここでの支援を通して私自身の保育観がゆらぎました。保育園ではクラスは一人ひとりが集まって集団となっていると認識し個々を大切にしていたつもりでしたが、いつの間にかクラス全員を同じレベルに引き上げみんな一緒に出来る子が良い子と、集団をみている自分があることに気付かされ、個々を大切に考える機会をもらいました。

人との出会いそれはひとつの運命でチャンスです。人の考えを聞いたり、みたりすることで、知らない世界や自分では気が付かない自分を知ることが出来ると思います。その中でも一番の出会いとはこども達でした。こどもは遊びの天才で大人にない感性と発想で私達を驚かします。直球過ぎる言葉もありますが、一番正直な意見でもあります。これからの出会いを楽しみに無理せず歩きたいと思っています。



「あっという間に30年」 大久保(豊紫) 英巳

広島市保育士
(幼14期・昭和61年卒)

短大を卒業して30年になります。卒業後就職した離島の養護施設では、3歳～18歳の子どものお母さん代わりとして住み込みで働きました。今思えば、20歳そこそこのお母さん業はママゴトのような力不足な母親業だったと当時の子どもたちには申し訳なく思っています。春だというのに、両手はあかぎれで血がにじみ、痛みで眠れなかった。社会人1年生のスタートでした。この養護施設に3年勤めた後、広島に戻って、2年余り、公立保育園の臨時保育士として勤めましたが、結婚、出産を経て、専業主婦となりました。長男が生まれ、7カ月の頃、孤立した育児に疲れ、社会から切り離されたようで悶々としている時に、認可外の事業所内保育所から声をかけてもらいました。自園措置が可能で、授乳時間が取れる事。離乳食も手作りで、保育料は高額だったけれど、保育者も保護者もよい保育をすることに同じ方向を向けていることが魅力的で、主人に頼み込んで、保育の現場に戻りました。

自分が保育をがんばることが、イコール、我が子がよい保育を受けられているという思いで、第3子が1歳7カ月になるまで、働きました。それからは、学校行事や子育て、家庭の両立に重点をおき、公立保育園の臨時保育士として、処遇や雇用形態は様々でしたが、働き続けました。

8年前に、子育てに余裕ができる頃、保育士としてきちんと働き続けられるように試験を受けて公立の嘱託保育士となり、今に至ります。未熟だった私も、結婚、子育てを経験し、現役の母親の目線で保育運動にも携わり、様々な学習会で出会った同業者やお母さん、子どもたちから学び、今もこうして保育士を続けていられるのは、実家の母の助けもあってです。仕事が休めない時は、病気の子どもたちをよく預けたものです。

第3子は、私と同じく保育士になりたいと、今春、岩国短大を卒業します。未熟な保育士がスタートラインに立ちました。これから出会う同僚、保護者、子どもたちに助けられ、鍛えられて、少しずつ保育士らしく成長してくれることを楽しみながら、実は不安と心配の方が大きな私ですが、母がしてくれたように、彼女の成長を近くで見守っていけることもまた幸せなことと感謝している近頃です。



感謝

蛭濱 弓美子

岩国国際観光ホテル・開花亭
(ビ1期・平成15年卒)



月日はあっという間に過ぎ、私が岩国短大を卒業して13年経ちます。

市内のホテルに勤務して今年で14年目に突入しますが、まさか自分でもここまで続くとは夢にも思いませんでした。

一緒に入社した同期もみんな退社して、私のみとなりました。今でもその同期や先輩、後輩、短大時代の友人との交流もありますが、「凄い。感心する」などと褒められることもあります。

でも私自身としてはまだまだ未熟者です。

後輩たちの見本となるように成長しなければならないし、なおかつ不安もあります。これは切っても切れないことであり、常に頭の中において考えております。

また、2年前から職場も変わりまして以前は総務・経理を担当しておりましたが、今度はフロント、予約、宴会と兼務する部署へ異動になりました。裏方から表舞台へと自分でも予測出来ずにまさかの一大事でした。私は異動することなどないと考えていたのに、その時は信じられませんでした。でもこの事実を真摯に受け止めて、新しい部署でも精一杯やって行こうと決意しました。

そして2年後。今ではお客様や従業員の方々に気を遣ってばかりいる日々です。精神的に疲れますが、時には息抜きしながらうまく調整しています。やはり息抜きも大事だと最近つくづく感じています。

でも私以上にもっと苦勞や困難に立ち向かっている人もきっと居るはず。その人たちのことを思うと、私のこのちっぽけな悩みは何なのかと考えてしまいます。これは人それぞれであるから、仕方なく悩みは常にあるものだと思います。

仕事面においても、お客様に喜びや満足してもらえるように常に心がけております。それが私の願いです。

「お料理が美味しかった」「また来ます」などのありがたい言葉が、接客している私たちにとっての励みになっています。クレームを出さない為にもいつも緊張感や真心を込めて接客しております。

改めて私はこれまでたくさんの人達と関わって来ました。本当に感謝しております。

「ありがとう」と言われることはとても嬉しいですし、この先もずっと、せめて一日一回言い続けて行こうと決意しました。そうすれば、どんな些細なことでも良いことがあるかもしれません。この言葉を大切にしていきたいです。

遊びが子どもを育てる

立川 隆治

ぶれいすくーる ちゅーりっぷ 副園長
(幼32期・平成16年卒)



私は岩国短期大学を卒業して12年。現在は広島市内の認可外保育施設「ぶれいすくーる ちゅーりっぷ」で副園長をさせて頂いています。私とちゅーりっぷの出会いは2年生の10月頃に総演の先生から「面白い幼稚園があるから行っておいで」と言われて、何気なく実習に行き、そこでの保育内容や園長先生の保育理論をお聞きし、とても感心させられました。今年の就職は無いと言われました。その後はいろんな園に就職活動で実習に行きましたが、ちゅーりっぷが忘れられず、何度も実習のお願いをして卒業間近に就職する事が出来ました。ちゅーりっぷはとてもユニークな幼稚園で「毎日がピクニック」を合言葉に野外活動に積極的に取り組んでいます。園庭はありませんが、広島全域がちゅーりっぷのホームグラウンド！ある限られた空間に隔離して育てるのではなく、地域全てを子どもたちの学習の場として用意することで季節を肌で感じ、子どもたちは自然を心に映像・匂い・肌感覚として身体に浸透し、数々の思い出が後に映像として思い起こす事の出来る豊かな心の育ちがそこにある。そしてとにかく遊ぶ？「遊んで、遊んで、人間になる」大人にとって遊びは余暇であったり、暇つぶしだったりするので取るに足らない事かもしれませんが、子どもたちにとっては遊びは一つ一つが興味の対象であり、学習の基礎作りでもあり、社会を生き抜く力を育てるために欠く事の出来ない事、遊びは生きた実感として物事を認識し学ぶための方法です。友達を作る力、人との対立を解決する力、必要なルールを作り出す力、なんでもやってみようという好奇心や意欲も自然と身につくのです。ちゅーりっぷでの活動を通して私もいろんな体験をさせてもらい、日々成長する事が出来ました。誰も最初から天職は存在しない！どんな仕事でも毎日を楽しみ、一生懸命仕事をする事で、今の仕事为天職に変わってくと思っています。これからもこの仕事为天職だと誇れるように全力で遊び楽しみたいと思います。



今年はさくら会のしだれ桜にたくさんの花が咲きました！





平成23年度 岩国短期大学さくら会総会 平成23年6月19日

平成23年度岩国短期大学 さくら会総会・懇親会 (報告)



新庄前学長

平成23年6月19日(日)に「平成23年度岩国短期大学さくら会総会」が行われました。出席者は卒業生42名、退職教職員7名、現職教職員12名の総勢61名の皆様にお集まりいただき、なごやかに開催されました。

まず、講堂(体育館)で総会が行われました。新庄前学長、寺嶋副学長(現学長)をはじめ来賓の皆さまや卒業生の皆さまにご出席いただきました。

総会終了後、引き続き卒業生と在學生による和太鼓演奏が行われました。力強い太鼓の響きに会場内は感動の連続でした。続いて卒業生「寺嶋組」によるよさこい演舞が行われました。子どもを連れての参加に時の速さと、変わらないパワーを感じました。

場所を図書館視聴覚室に変えての懇親会では、懐かしい先生方を囲んで、時間が経つのも忘れ、いつまでも尽きない話に花が咲きました。

次回の総会は平成28年6月19日(日)に短大で行います。ぜひ懐かしいメンバーと連絡を取り合ってください。クラス会、学年会として出会う機会にしてみてください。役員一同、皆様にお会いできるのを楽しみにお待ちしております。



在りし日の土井先生と中川先生



会長と山本恵子先生、村上先生



懇親会



受付の様子



ビジネス実務科の卒業生と先生方



懇親会



寺嶋組によるよさこい演舞



「蓮」による和太鼓演奏



総会の様子

速報!

約1,200名の親子の方が来場! 第5回記念 「Iwatan親子フェスタ」



平成28年2月6日(土)に第5回記念「Iwatan親子フェスタ」を岩国市総合体育館で開催いたしました。近隣の市町村から1,200名を超える多くの親子の方の来場をいただきました。岩国短期大学幼児教育科1・2年生全員の学生はもちろん、岩国市保育協会、岩国幼稚園協会、岩国市保健センター、岩国市母子保健推進協議会、和木町母子保健推進協議会、三原善伸岩国市会議員、岩国総合高等学校の生徒さん、岩国工業高等学校吹奏楽部の皆さま、そして岩国短大同窓会さくら会として、昼食販売のブースでの参加協力いたしました。

これからも地域に信頼され、愛される岩国短期大学を目指す教育を同窓会として支援していきたいと考えます。



岩短をより

寒さもようやくゆるみ、春の息吹が感じられる今日この頃ですが、同窓会の皆様には、ご健勝でお過ごしのことと拝察いたします。

さて、平成27年4月には、新庄方子前学長の任期満了に伴い、新学長に寺嶋隆教授が就任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

本学の概況ですが、平成25年度に2回目の第三者評価を受けまして一般財団法人短期大学基準協会から「適格」の評価をいただきました。

次に、入学減少等により次のとおり学生の募集停止・入学定員等変更が行われました。

○キャリアデザイン学科(ビジネス実務学科を改組)の募集停止・廃止

キャリアデザイン学科は、平成23年度に学生募集を停止し、平成25年度末で同学科は廃止となりました。

学 生 数

幼 児 教 育 科 130名

教職員スタッフ

学 長 寺嶋 隆
 教 授 半 直哉 (幼児教育科長)
 中川 伸子
 (教務部長・自己点検・評価委員会委員長・
 学生相談室室長・図書館長)
 山縣 明人
 正長 清志
 准教授 竹野 博信 (情報機器管理室室長)
 朝倉なぎさ (学生部長)
 二宮 智之
 講 師 杉山 充
 佐々木和美
 西本 裕子
 光原 恵子

○幼児教育科の入学定員変更

平成27年度から幼児教育科の入学定員100名から80名に変更しました。

次に、学生の教育の一層の発展を図るため、平成26年度から特色ある授業を展開、魅力ある大学作りの取り組みを始めました。

その第一弾として、26年4月から岩国市長福田良彦氏に岩国短期大学客員教授に就任をお願いし、客員教授の特別講義を3回開講、好評のうちに終了いたしました。

学生が卒業後、社会人として地元で活躍するにあたり大切なことを学習することができました。さらに今後も引き続き特別講義を開講していくことしております。

また、本学の地域貢献として、平成23年度からIwatan子育て愛ねっとアカデミーを立ち上げ、本学の学生の教育、子育てに関する保育現場・地域からの要望に応じて、「心や健康に関すること」・「食と健康に関すること」・「けがや病気に関する初期の治療や処置のあり方」・「命の教育」・「子育てに悩む保護者への子育てサポート」等、保育や子育てにおける今日的課題に対応するために、岩国幼稚園協会、岩国市保育協会、岩国市保健センター、国立病院機構岩国医療センターと連携して、「岩国子育て支援ネットワーク」を設立して活動しております。今後も親子のための公開講座(3回シリーズ)(平成28年度からは「親子広場」として実施)、保育者対象研修会、Iwatan親子フェスタなどを実施しますので同窓会の皆様もぜひご参加をお願いします。

施設整備事業としましては、近年次のとおり改修を行っております。

平成26年度 1号館のトイレの改修

今後の予定

平成28年度～29年度 3号館の冷暖房設備の全面改修

平成29年度 1号館耐震補強工事

本学では、山口県東部の唯一の高等教育機関として、建学の精神「楽学」を生かし、地域に根ざした教育を、そして短期大学の特長である短期間における人材養成を図るため、日夜、教職員一同頑張っております。

さらに、本学は、不断の教育内容の改善等を進め、定員充足を図るため教職員が一丸となって学生募集に当たっております。幼児教育科に特化した短期大学として、さらに、学園の魅力をPRしていきますので、同窓生の皆様からも本学への進学のご支援を賜りたいと願っております。

終わりに、同窓生の皆様方のますますのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

事務長 藤井 功

「岩国短期大学同窓会奨学金制度」のお知らせ

平成25年度より在学学生(2年次のみ)の1年間のための奨学金制度を始めました。

目的は岩国短期大学に在学する者の経済的負担を軽減し、学業を支援すること。

給付額は、授業料のうち前期10万円、後期10万円の1年間20万円を給付する(返済不要)。

受給資格については、1年次の成績が良好で資格・免許を取得したうえで卒業が見込まれること。(家庭の経済状況を重視する)

「卒業生子女等進学支援奨学金」(本学卒業生のこども、もしくは兄弟姉妹に対して入学金半額免除)とあわせて卒業生の皆さまのお子様にとっても魅力的な奨学金制度を実施しています。

就 職 状 況

(平成26年度卒業生)

就職先	就 職 者 数			備 考
	県内	県外	計	
幼稚園	9	4	13	卒業生50名 就職希望者46名 就職率100%
保育所・園	9	9	18	
社会福祉施設	7	2	9	
企 業	1	5	6	
そ の 他	0	0	0	
合 計	26	20	46	

主な就職先

- ・岩国中央幼稚園
- ・四恩幼稚園
- ・大河内幼稚園
- ・ほうりん東野幼稚園
- ・ふじ幼稚園
- ・青蓮寺幼稚園
- ・みどりがおか幼稚園
- ・田布施町立麻里府保育園
- ・常照保育園
- ・花岡保育園
- ・共榮保育園
- ・さかえ保育所
- ・五日市乳児保育園
- ・法輪保育園
- ・サムエル薬師が丘保育園
- ・徳風保育園
- ・城南学園
- ・自然の村
- ・若葉園
- ・光清学園
- ・柏学園
- ・恒和会
- ・アート・コーポレーション
- ・株式会社こどもの森

平成26年度 岩国短期大学「さくら会」収支決算書

自 平成26年 4 月 1 日
至 平成27年 3 月31日

収入総額 2,823,330円
 支出総額 388,842円
 翌年度繰越額 2,434,488円

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)
入 会 金	530,000	495,000	35,000
事 業 収 入	90,000	97,700	△7,700
寄 付 金	0	0	0
雑 収 入	0	0	0
預 金 利 息	2,000	345	1,655
基本財産運用収入	5,000	1,208	3,792
前年度繰越金	2,229,077	2,229,077	0
計	2,856,077	2,823,330	32,747

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)
会 議 費	30,000	14,186	15,814
事 務 費	210,000	75,886	134,114
通信運搬費	20,000	6,106	13,894
旅費交通費	100,000	68,000	32,000
印刷製本費	20,000	1,780	18,220
消耗品費	50,000	0	50,000
委託費	0	0	0
雑 費	20,000	0	20,000
事 業 費	350,000	297,562	52,438
同窓会名簿	0	0	0
総会開催	0	0	0
研修会費	50,000	0	50,000
大学祭参加費	100,000	97,562	2,438
同窓会奨学金	200,000	200,000	0
基本財産繰入	2,000	1,208	792
予 備 費	2,264,077	0	2,264,077
計	2,856,077	388,842	2,467,235

平成26年度決算書について、関係帳簿、書類を監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成27年4月21日

監事 蔵重 美紀
 監事 山岡 桜子

●● 平成27年度さくら会役員 ●●

役職	卒期	氏名
顧 問		竹野 博信
		佐々木和美
会 長	[英 3 期]	嘉屋 栄子
副会長	[幼10期]	富岡 恭子
	[ビ 1 期]	蛭瀬弓美子
監 事	[幼12期]	蔵重 美紀
	[幼17期]	山岡 桜子
委 員	[英 1 期]	吉廣 絹江
	[幼 3 期]	中川さか枝
	[幼 3 期]	中村 充子
	[幼11期]	数井 智子
	[幼14期]	中村 洋子
	[幼14期]	吉岡 美穂
	[幼22期]	加藤真由美
	[幼22期]	手嶋 由香
	[幼24期]	森 陽子
	[幼24期]	広田 康子
	[幼30期]	鍋島有美子
[幼32期]	藤本 拓也	
[幼32期]	花本早弥佳	
[幼33期]	大羽 孝幸	
[幼37期]	木村 嵩	
[幼37期]	井上 麻希	
[幼41期]	石本 佳那	
[幼41期]	秦 勝弘	
[幼41期]	末兼 悠香	
[幼41期]	河本 奈々	
[幼43期]	山根 理可	

編集後記

岩国短期大学卒業生の皆さまには、さくら会(同窓会)のためのご支援、ご協力いただきありがとうございます。また、第15号会報「さくら」発行の際、ご協力いただいた皆さまには深く感謝しております。

今後、さらに会員相互の親睦と会報を充実させていきたいと思っておりますので、ご意見等ありましたらさくら会事務局までお寄せください。